

平成29年度学校関係者評価委員会中間報告書および評価委員の意見

学校法人常松学園札幌工科専門学校
学校関係者評価委員会

議 題

- ・平成29年度 前期の実施状況における中間報告
- ・平成29年度 後期への改善方針について

1. 開催日時 平成29年7月15日（土）10:00～11:30

2. 場 所 札幌工科専門学校 第2校舎 会議室（デザイン室）

3. 出席委員 前田 寛之 一般社団法人北海道環境保全技術協会 顧問（業界関係者）
下原 英一 (株)イーエス総合研究所 常務執行役員業務企画部長（企業等委員）

出席教職員 常松 哲 理事長
三上 敬司 校長
大坂 道明 教頭
阿部 峰雄 環境土木工学科長
岩瀬 聡 造園緑地科長

欠席委員 小林 勝美 緑化デザイン(株) 代表取締役社長（企業等委員）
奥内 尚史 社団法人札幌造園協会 理事長（業界関係者）
古城 学 常松学園札幌工科専門学校同窓会長
伊藤 幸一 事務局次長
中田 亜弓 モエレ町内会員

平成29年度 前期の実施状況（中間報告）

I 教育理念・目標

学校の取り組み状況

・建学の精神を基に学校教育目標が示されている。この教育目標が持つ理念を入学後のガイダンスにて学生に確実に伝え、その後も適時繰り返すことで浸透させている。

⇒今年度も上述したことをガイダンスやホームルームにて実行している。

・教育理念・目標については平均 3.9 と比較的高い評価となった。多くの職員が教育理念の浸透に尽力していることの表れと評価する。一方で学生数の増加等による指導の徹底の課題も挙げられた。

⇒今年度は評価が昨年度平均 3.9 を上回るように、学校関係者評価委員会で指摘されたところを主とし改善できるよう実行して行きたい。

評価委員の意見

・教育理念の中にボランティアの精神を謳ってはいかがか？今後、日本でも多くの災害に見舞われることが予想される。そのときに技術者としてもボランティア精神をもって社会貢献をできるだけするように教育してはいかがでしょうか。吉田学園と協力してゴミ拾いなどの近隣への貢献をしてはいかがでしょうか。

⇒今のところは謳っていないが、今後検討する。なお、測量実習などで実習地の周辺や実習した近隣のゴミ拾いを行っている。

・数学を習熟度別にクラス分けをしているのはなぜか。

⇒理事長の方針で、土木系の授業は特に数学の学力が要求されるので、本学においては学力不足の学生を補うために習熟度別にクラス分け授業を行っている。

II 学校運営

学校の取り組み状況

・校長が、時流や職員の意向を鑑み、さらに理事長や設置者の指導を受けながら学校経営を行っている。この経営方針を受け、今年度もより良い学校運営がなされるよう教頭および学科長が中心となり校務を推進している。

・4月から教員が二人加わり新体制で学校運営を行っているが、連携不足や協働体制が不十分な場合が未だ見受けられる。今後はお互いの対話を重視し、連携や協働体制の不十分なところに対して改善して行きたい。

⇒前測量担当教員の後任の授業に対して力量不足は否めない。また、一部の学生から不満の声が出ている。

評価委員の意見

・学生から授業の質における不満が出るということは学習意欲が高い現れである。そのことに対応していくことが学校の責務である。

⇒今年度の学生は求める物が高く、特に、測量情報科は土地家屋調査士試験に四名が挑戦する予定である。

Ⅲ 教育活動

学校の取り組み状況

・一日の平均授業コマ数が3～4コマという、極めて密な時間割の中で教育活動を展開している。造園緑地科では教員1名を補充しかつ非常勤2名で補いながら進めている。環境土木工学科・測量情報科では1名の欠員に対して教員1名を補充することができた。

・授業は今のところ年間計画通りに進められ、教科・科目の評価・評定も適切に行っているものと評価できる。また、学校祭、体育大会、現場見学会等の行事については体育大会が無事終了し、今は学校祭の準備に取り掛かっている最中である。

・学生数の増加及び多様化する学生集団に対し十分に対応しきれていない面も指摘され、学生個々の能力に合わせたよく分かる授業の実施や、学生へのマナー指導といった面に課題が残った。

⇒多様化する学生に対してはベテランの教員にサポートしてもらいながら、授業が進められている。学生へのマナー指導に対しては、ガイダンスやホームルームで徹底指導したが、残念ながら試験期間中にトイレの壁を破損させた不届きな学生がいた。犯人は未だ見つからず。

評価委員の意見

・本学は素晴らしい指導に尽きる。また、官庁出身の職員（国家、道職など）でも資格が必要である。ベテランの道職員にも資格取得に対して刺激となる。帯広畜産大学の教員の話では大学では資格取得する学生が少ないが、本学の学生は大学生と違って資格取得の意識が高いと評価を得ている。また、資格を持っている学生は会社の定着率が高いようである。

⇒今年度の土木科2年生は17名中14名が国家・道職・市町村職などの公務員を志望している。大学とは異なり、造園緑地科では技術士補に合格しており、他にも造園施工管理試験には毎年全員合格している。このことから、最近では森林系コンサルタントからも求人が来るようになった。森林系を学ぶ学校は北大の他に本校しかないことも要因のひとつだと思われる。

Ⅳ 学修成果

学校の取り組み状況

・今年度も引き続き北海道開発局、北海道庁、防衛省、自衛隊の説明会を本校にて開催し、公務員に対する意識付けを行っている。

・今年度も環境土木工学科および造園緑地科の学生は各種公務員技術職採用試験に向けて希望者全員が合格できるように指導している。また、民間に就職を希望している学生も希望通りの就職先に就けるように指導している。

評価委員の意見

・ 開発局採用認定者は資格を有している学生の評価点が高い。資格取得しているだけでなく授業の内容を把握している。また、資格は無いよりあった方が良いが、資格に見合った力がなければ世の中に通用しない。その力を身に付けることができることが学校の役割である。

⇒開発局の採用担当者のお話では採用試験において、ある一定以上の合格点を満たしていれば合格できる。このことは本校の信頼が高く、資格取得のみならず教科や実習の内容も良く知っているという評価を得ているものと考えている。本校の卒業生の中には室蘭工業大学へ編入した後に、東京都庁技術職員の採用試験に合格した者がいる。

V 学生支援

学校の取り組み状況

- ・ 学生への安全管理のためのガイドラインを作成中である。
- ・ アカデミックハラスメントや諸トラブルの早期発見・対応を行うために目安箱メールを設置して何件かメールが来ている。
- ・ 学生の課外活動、生活環境の支援、卒業生への支援などにも取り組んでいる。

評価委員の意見

・ 造園緑地科では技能五輪に参加しているようであるが、色々なコンテストに出場することは学生の意欲を高めることのできる良い機会である。

⇒技能五輪の練習は学年を超えた実習の時間で行うため、その練習風景を後輩に見せて意識を高めている。このことによって、大会への参加意欲が次年度へ引き繋がれている。

・ 大通りで行われている花フェスタには出場しないのか。

⇒過去には出場していたが、最近は授業時間割がタイトなので参加していない。話題作りとして、2件ほど庭造りの話があったが、お断りした。理由としては前述したとおりである。

・ 本校周辺は湿地帯であるので、地域へのアピールとしてビオトープを実施してはいかがでしょうか。

⇒今年度、ビオトープ管理技士の認定校となった。今後、ビオトープを実行し、本学周辺の環境づくりを行いたいと考えている。

VI 教育環境

学校の取り組み状況

・ 本校の情報処理室には 30 台のパソコンが設置されており教科「情報処理」の時間のみならず、調べ学習や実習成果の解析、進路活動等様々な場面で活用されている。学生数の増加のために情報処理室の使用頻度が高くなり、正規授業以外の測量におけるデータ解析することや 12 月末に行われる企業実習の発表会ではプレゼンテーション用資料を作成することが昨今厳しい状況であった。このことにより、この問題を解消するために、今年度はノート型パソコンを 40 台購入する予定である。今後は内容が充実した授業の進行と学力向上が期待できる。

・ 一般社団法人北海道測量設計業協会には 5 年程前からお世話になり、学生への最新測量技術を指導して頂いている。また、今年度、7 月には株式会社岩崎の協力を得て、UAV を用いた三次元計測の

実演も見学する予定である。また、10月に企業委託生の北海道朝日航洋の協力による航空レーダー測量の講習を行う予定である。

・造園緑地科ではハード面（実習施設）について、今年度では屋上緑化施設で経年劣化した部分を補修した。しかし、ハウスの老朽化も進んでいるので、危険な状態になる前に対応して欲しい。
⇒早急に対応するように。

評価委員の意見

・時代に即した素晴らしい教育である。
・教育環境づくりとして時代もあるが、今後も継続して基礎学をしっかりと身に付けられるように教育して欲しい。

Ⅶ 学生の受け入れ募集

学校の取り組み状況

・本校の入学者選抜試験は数学、作文、面接を課し、これを総合的に判断し合否を決めている。平成29年度（3月17日現在）は出願者から6名の不合格者を出した。時代に即した学生募集という点では、多くの専門学校は受験者全入が一般的になっているが、技術者育成教育に耐えうる学生を求めるといふ、本校の理念を貫くために現在の入試選抜を行っている。

⇒今後も現在の入試選抜で行い、できるだけ質の良い学生を入れ質の高い教育を行い、社会に送り出すことが本校の役割であるものと考えている。

・文章力の無い学生が増加しており、今後は作文内容への評価も入試判定基準の中でより重視していく必要があると考える。なお、学生に対しては次年度から文章作成の授業を5コマ入れる予定である。最近の土木系の学生は、文章力に加え図形作成能力も落ちてきている。平板測量において図形作成能力を育てている。さらに、造園緑地科の学生でも水準器を用いて、水平や垂直を出せない学生が多くなってきていることから、感覚的な思考力が欠如しているようである。

⇒今年度は前期補講時間に日本漢字能力検定協会が作成した教科本（四級文章作成）を用いて担当教員が1年生を対象に教えている。さらに、後期には漢字検定三級文章作成の授業を行い、11月に行われる検定試験を受験させる予定である。

評価委員の意見

・出前授業は行っていないのか。

⇒昔は行っていたが、今は要望もなく教員体制も余裕がない。

・中学校の体験学習とは何か。

⇒中学生が本校を訪れ、土木系および造園系で仕事の内容や就職先などを学んでいる。今年も多くの中学校から依頼が来ている。このことによって、業界の魅力を広く伝え将来の入学生へと結びつくよう望んでいる。

・造園緑地科では定員を割っているようである。良い実践教育を行っているだけに残念である。

⇒新卒をどのように入学させるかが鍵である。しかし、入学した学生は学習意欲が高く、造園業界でも本学の学生を強く欲している状況にある。

・女性の割合はどれくらいか。

⇒土木系3名、造園系3名である。

・女性を入れる取り組みがあっても良いのではないか。

⇒常々考えており中々良いアイデアが出てこないが、今後、前向きに検討しなければならない事案でもある。